

研究課題名	農業 DX を活用した中山間地の地域課題解決に向けた取り組み
区分	農 X ファンド 農 X ファンド (材料系) <b>重点支援課題</b> その他
参加研究者	渡邊 修
研究のポイント・成果等	○中山間地域の農業生産に関わる様々な情報を「見える化」します。 ○衛星画像から水田を自動検出する技術を開発しました。
研究内容※1	<p>農業は経験や勘を元に、さらにはそれらが受け継がれ、連綿と続いてきた産業といえます。そのため生産システムの構築やデジタル化が大きく遅れているのが現状です。しかし、日本の就農者人口が減少している中で、農業のスマート化を通して若い世代の就農意欲を高めたり、農業の持続可能性を確保したり、そして何よりも少人数で効率的に農林地を管理できることを発信しなければならない状況にあるとも言えます。事実、IT 技術の進歩により実に様々な製品が上市・継続開発*され、生産現場にスマート技術を導入する障壁が徐々に下がってきています。一方で、これまで農業経験がない新規就農者や導入意欲のある農家に対して、農業の知識に加えてスマート化についての技術的な知識やスキルの習得を促せる場所や機会が必要であることも分かってきました。そこで本研究成果の社会実装の形の一つとして、申請者が取り組む○ドローンや衛星リモートセンシングを活用した農地情報の収集、○作物等の生育診断、○鳥獣対策における通信システムの高度活用、○地理情報システムの高度利活用、を基盤としたリカレント教育プログラムを構築し、可視化した地域の多様な農業情報を経営や政策などで活かせる人材の育成を目指します。*：<a href="https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/products.html">https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/products.html</a></p>
連絡先※2	信州大学学術研究・産学官連携推進機構 助教 (URA) 三宅 誠司 Mail : miyake_seiji@shinshu-u.ac.jp